

松江の町キャンパスに

神戸の大学生観光学ぶ

神戸夙川学院大(神戸市)は、8月18日から4泊5日の日程で「松江キャンパス夏季講座」を松江市で開く。同大と「観光振興」に関する協定を結んでいる松江観光協会が学生たちの観光現場での就業学習を全面支援する。受け入れ第一弾の今回は和菓子作りや旅館研修などを予定。関係者は「いろんな体験を通して松江の良さを発見してくれば」と期待している。

神戸夙川学院大は昨年、観光文化学部1学年で設立し、現在、1、2年生約450人が学ぶ。日本の観光産業を担うリーダーの育成を目標とする同大と、国際文化観光都市・松江の観光振興を目指す同協会は1月、協定を締結した。また、同大は4月に松江市立

来月18日から5日間

女子高とも「高大連携協定書」に調印した。計画では、夏季講座には、2年の希望者24人が参加。初日は松江城や武家屋敷を散策し、堀川遊覧船にも乗船する。島根町の宿泊施設に泊まり、2日目は和菓子や、9月13日から始まる市の観光イベント

和菓子作りや旅館研修

「松江水燈路」に出品する行灯作りを体験し、六道湖の夕日も見学する。

3日目は玉造温泉・松江しんじ湖温泉の旅館で実地研修。4日目は学生が松江の観光振興に関する具体的提言、松江ツアープランなどを発表し、同協会の高橋一清・観光文化プロデューサーが講評する。講座には市立女子高の国際文化観光科1、2年生も参加する。

宮崎賢次郎・同協会事務局長は「都会にはないおもてなしなど、いろんな体験を通して松江の良さを発見してほしい」と言い、同大の米田稔宏・入試広報部長も「学生にとっては格好の研修の場で、松江には観光振興でお役に立ちたい」と話している。